

事務事業チェックシート

事務事業No 93 事業名 人間ドック事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	9	将来に向かって希望の持てる福祉社会の形成
施策	4	社会保障制度の充実
取組方針	4	国民健康保険制度及び後期高齢者医療保険制度の適正な運営

事業種別	継続	
事業期間	～	
事業実施の根拠法令	国民健康保険法第82条	
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	国保年金課	亀井 宏和 (435-1057)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	国民健康保険事業特別会計		
	款	保健事業費		
	項	保健事業費		
	目	保健事業費		
	大事業 事項	保健事業 人間ドック事業		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
	40～74歳の被保険者を対象に、疾病を早期発見・早期治療し健康の保持増進を図る。	特定健康診査を含む総合健康診断(人間ドック)の受診を希望する方に対し、人間ドックの費用の一部22,000円(特定健診分10,800円、人間ドック分11,200円)を補助する事業である。対象者全員に特定健診の受診券を同封した案内通知を送付し、特定健診と合わせた形での人間ドックを周知案内している。実施医療機関は市内55か所あり、受診の際は、受診券と保険証を持参する。検査は保険診療適用外であるため、医療機関によって検査料金は異なるが、受診者は所得に関係なく補助額を差し引いた金額を自己負担金として支払う。医療機関は、請求書と共に検査結果データ・人間ドック申請書を添えて市へ提出し、それらを確認した上で、人数分の補助金を支払う。必須検査項目は、特定健診項目プラス腹部超音波・胸部レントゲン・胃バリウムまたはカメラ検査・便潜血検査・血液検査(免疫・腎臓機能等)・視力検査である。				
実施内容		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		和歌山市の医療機関に委託し、人間ドックを実施する。	和歌山市の医療機関に委託し、人間ドックを実施する。	和歌山市の医療機関に委託し、人間ドックを実施する。	和歌山市の医療機関に委託し、人間ドックを実施する。	和歌山市の医療機関に委託し、人間ドックを実施する。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	39,200	31,117	39,200	33,005	39,200	33,584	39,200		39,200	
伸び率(%)	-	-	0.0%	6.1%	0.0%	1.8%	0.0%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	3,022	4,116	3,923	3,881	3,859	4,338	4,338	4,338	
	正規職員以外	201	205	0	28	0	0	0	0	
	小計	3,223	4,321	3,923	3,909	3,859	4,338	4,338	4,338	
国庫支出金										
県支出金	8,000	8,000	6,400	8,000	6,400	8,000	6,400		6,400	
市債										
その他	31,200	23,117	32,800	25,005	32,800	25,584	32,800		32,800	
一般財源(税等)										
所要人数(人)	正規職員	0.40	0.54	0.52	0.52	0.52	0.55	0.55	0.55	
	正規職員以外	0.10	0.10	0.00	0.02	0.00	0	0	0	
主な予算内訳	人間ドック補助金39,200千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
受診券送付数	通	目標値					
		実績値	74,324	73,603	71,542	68,544	
		達成度(%)					
ドック受診者数	人	目標値	3,500	3,500	3,500	3,500	
		実績値	2,793	2,987	3,042		
		達成度(%)	79.8%	85.3%	86.9%		
成果指標		目標値					
		実績値					
		達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む		緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)		達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない		見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>平成22年度から特定健康診査を無料化し検査内容を充実させたため、人間ドックは受診者の増加が横ばいとなり、受診者数がほぼ一定化している。ただし、がん検診を含めた総合的な健診であるため、被保険者のニーズは依然として高く、結果としても、疾病の早期発見・早期治療につながり、中長期的に医療費適正化に寄与する。ここ3年間、同様の内容で事業を進め一定の成果を上げているため、今後も、継続して本事業を実施していく。</p>
見直し・改善内容	